

横浜市立 境木中学校 学校評価報告書 (元 ~ 3 年度)

重点取組分野	元 年度		総括	2 年度		総括	3 年度		総括		
	具体的取組	自己評価結果		具体的取組	自己評価結果		具体的取組	自己評価結果			
生きては たく知	①主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を進めています。②小中一貫教育推進ブロックにおいて積極的に授業公開し、共通理解を図ります。③生徒理解に一層努め、支援が必要な生徒に補習等の支援を行うなど、個に応じた指導の充実を図ります。	①「思考力・判断力」を高めるために言語活動を意識した授業を行った。②校内授業研究会では共通テーマについて議論し理解を深めた。③夏期休業中や定期テスト前に補習や学習相談を行うなどの学習機会を設けた。数学では少人数授業を実施しきめ細かく指導した。	B	生きては たく知	①主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を進めています。②小中一貫教育推進ブロックにおいて積極的に授業公開し、共通理解を図ります。③「言語能力」「自分づくりに関する力」の育成を授業や行事を通して目指します。	小中ブロックで取り組んできた育成を目指す資質・能力や、人との関わりを通して主体的に考え行動する姿勢について、職員が意識的に授業改善を進めることで概ね成果を上げてきている。授業公開のみならず、より良い小中交流の形をさらに模索していきたい。	B	生きては たく知	①主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を進めています。②小中一貫教育推進ブロックにおいて、授業公開や研修会を通して、教育課程や児童・生徒の資質について共通理解を図ります。③「言語能力」「自分づくりに関する力」について、具体的にどの場面で育成し、伸ばしていくか検討していきます。	校内授業研のテーマを「言語能力」「自分づくりに関する力」で実施したり、各行事に向けグループワークトレーニングを取り入れるなど意識されており、生徒にも浸透してきている。「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業改善についてはさらに研究する必要がある。	B
豊かな心	①教育活動を通じて行われる道徳教育と道徳の時間との関連をはかり、体験的な活動を生かした指導を行います。②市人権作文コンクールに参加し、人権についての考えを深める機会とします。③合唱コンクールを実施する過程において合唱に触れ、豊かな感性や情操を育む機会とします。	①「特別の教科 道徳」では、教科書導入を見据えて授業計画の見直し・改善を行った。②人権作文コンクールや平和学習などへの取組を通して、人権について考えさせることができた。③合唱を通して、豊かな感性や情操を育むことができた。	B	豊かな心	①教育活動を通じて行われる道徳教育と道徳の時間との関連をはかり、体験的な活動を生かした指導を行います。②市人権作文コンクールに参加し、人権についての考えを深める機会とします。③合唱コンクールを実施する過程において合唱に触れ、豊かな感性や情操を育む機会とします。	行事を通して学ぶ機会をもつことが難しかった。来年度も多くの事業が中止になることが予想されるが、その場合でも人権をテーマにした道徳授業を全校一斉で行うなど、中止になった事業に変わる人権教育を生徒に提示できるように、豊かな心を育む取組を年間を通して行いたい。	B	豊かな心	①教育活動を通じて行われる道徳教育と道徳の時間との関連をはかり、多面的な指導を行います。②様々な場面において、生徒の自活活動を深める機会とします。③行事準備の過程において、集団で力を合わせる経験に触れ、豊かな感性や情操を育む機会とします。	今年度も完全実施できる行事が少なく、計画していたものの途中で断念せざるを得ない行事もあつたが、このような状況の中でも、様々な経験をすることができ、生徒の成長に繋がった。次年度も継続したい。また、人権感覚を身に付ける対話的な道徳授業などにも取り組むたい。	B
健やかな 体	①生涯にわたって健康な生活を送るための、主体的に学ぶ姿勢、学び合う姿勢を大切に指導を進めます。②体力テストの結果を評価し、授業改善に活用します。③体力向上1校1実践運動を継続し、体力・運動能力の向上を図ります。	①食を取り上げ、実習にも取り組み、全校に向けた情報発信を行った。次年度は個人生活に着目した指導を行いたい。②学年が上がるとつれ、体力調査での評価が低くなっている。総合的な体力・運動能力向上のための、継続した取り組みが必要である。	A	健やかな 体	①生涯にわたって健康な生活を送るための、主体的に学ぶ姿勢、学び合う姿勢を大切に指導を進めます。②体力テストの結果を評価し、授業改善に活用します。③体力向上1校1実践運動を継続し、体力・運動能力の向上を図ります。	自肅期間が長かったことから、積極的に運動に親しもうとする姿勢や健康な生活を送るために主体的に学ぼうとするを育むことができた。今後は、体力テストの結果を自己分析して授業改善に取り組み、体力向上1校1実践運動を継続したりして、生涯にわたり体力・運動能力の向上を図りたい。	B	健やかな 体	①生涯にわたって健康な生活を送るために、心身の調和のとれた生活を身に付けられるような指導助言を行います。主体的に学ぶ姿勢、学び合う姿勢を大切に指導を進めます。②体力テストの結果を総括し、授業改善に活用します。③体育的行事や体力向上1校1実践運動を継続して取り組みます。	コロナ禍により、心身の健康保持増進に対する捉え方や取り組み方に、さらなる深化や発展が求められる中、生徒の健やかな成長を見守ることができた。今後も、生徒自身が健康な生活を送るための資質・能力を高めていきたい。	B
児童・生徒 指導	①全職員で全生徒を育てる意識を共有していきます。②様々な活動場面において、生徒の自治を推進し、自主性と自律の力、健全な母集団の形成を目指します。③情報の共有、円滑な伝達を意識して指導を進めます。	①学年を越えて情報を共有し、全学年の職員で協力見守った。②日常生活の場面において、生徒が一人ひとり主体性を持って取り組めるように努めた。③職員、保護者、関係機関との意見交換を大切に、誰もが安全・安心して学校生活が送れるように目指した。	A	児童・生徒 指導	①全職員で全生徒を育てる意識を共有していきます。②様々な場面において、生徒の自活活動を推進し、自主性の向上と自律の力、健全な母集団の形成を目指します。③教育相談を通して情報の共有、円滑な伝達を意識して指導を進めます。	全職員で、全生徒を育てる意識として職員・保護者側の意見としては、努力している傾向が見られる。しかし、生徒側からの相談や自活活動の取り組みについては、大人側も満足する解答が得られていない。そのことを踏まえ、今以上に生徒に寄り添った指導・相談ができる体制を職員一人ひとりが心掛けるようにしていきたい。	B	児童・生徒 指導	①全職員で全生徒を育てる意識を共有していきます。②様々な場面において、生徒の自活活動を推進し、自主性の向上と自律の力、健全な母集団の形成を目指します。③教育相談を通して情報の共有、円滑な伝達を意識して指導を進めます。	教育相談については全般的に高く評価をしていただいているが、生徒が教師に悩みを相談できているかという点に課題が残った。今後、係として改善できるようにしていきたい。	B
特別支援 教育	①特別支援教育コーディネーターを中心として、特別支援体制の充実を図ります。②連絡会において、小学校・養護学校・関係機関との連携を進めます。③日常的教育活動で、全生徒に分かりやすく効果的な指導方法や教室環境づくりなど、教育のユニバーサルデザイン化を図ります。	①毎月の定例会議での情報共有や特別支援教室の効果的な運用に向けた研究会の実施など、校内の特別支援体制の充実が図れた。学習支援の取組を次年度以降も継続していく。②小中ブロックの特別支援コーディネーターが連携して、支援体制の整備に努めた。	A	特別支援 教育	①特別支援教育コーディネーターを中心として、特別支援体制の充実を図ります。②連絡会において、小学校・養護学校・関係機関との連携を進めます。③日常的教育活動で、全生徒に分かりやすく効果的な指導方法や教室環境づくりなど、教育のユニバーサルデザイン化を図ります。	特別支援教育体制は少しずつ充実してきているように感じる。特に特別支援教室の支援体制を整備し、不登校支援に力を入れることができています。教室環境や学習支援については、学習指導部等と連携し、次年度以降さらに充実を図りたい。	B	特別支援 教育	①特別支援教育コーディネーターを中心として、特別支援体制の充実を図ります。②連絡会において、小学校・養護学校・関係機関との連携を進めます。③日常的教育活動で、全生徒に分かりやすく効果的な指導方法や教室環境づくりなど、教育のユニバーサルデザイン化を図ります。	特別支援体制の充実が図られていると認識していた点では評価できる。特に、不登校支援の一環として特別支援教室の効果的な活用が進んでいる。今後は、学習支援やユニバーサルデザインの視点に立った教室環境の整備や授業改善についても検討を進めたい。	B
キャリア 教育	①地域の方々の協力のもと、職業調べ、職業講話、地域事業所への職場体験、自分の進路を考える学習など、学年ごとに系統性をもった指導を行います。	①3年間の系統性をもった取組により、生徒が自分自身の個性や資質、今後の進路について考える機会となった。身近な人や地域の人々との交流を通じて、自己啓発性を高めた。他者との交流による考えの深まりを追求する指導を一層工夫していきたい。	B	キャリア 教育	①地域の方々の協力のもと、職業調べ、職業講話、地域事業所への職場体験、自分の進路を考える学習など、学年ごとに系統性をもった指導を行います。	地域の方々の協力を仰ぐことが難しい状況ではあつたが、学年ごとに進路学習を進めることはできたため、今年度の学びの内容を係内で共有し、来年度以降の系統性をもった指導の実施に役立てたい。	B	キャリア 教育	①地域の方々の協力のもと、職業調べ、職業講話、地域事業所への職場体験、自分の進路を考える学習など、学年ごとに系統性をもった指導を行います。②自分づくりパスポートや各学習でのPDCAサイクルを活用し、自己の分析や取組を振り返り、将来の自分に繋がる学習にします。	面談ごとに自分づくりパスポートを活用して、生徒一人ひとりの取組やプロセスを客観的に振り返る機会になっている。進路指導やキャリア教育での活用も今後ファイリングできるとよい。	B
地域連携	①地域交流会や地域防災訓練、地域行事への生徒の参加を促し、地域との協働を進めます。②学校ボランティア組織(境木中サポート隊)を積極的に活用し、学校への地域参加を進めます。	①地域交流会や地域防災拠点訓練、地域行事への主体的な参加を促し、地域との協働を進めます。②学校ボランティア組織(境木中サポート隊)を積極的に活用し、学校への地域参加を推進します。③様々な意見交換を通して、地域からの声を伝えていきます。	A	地域連携	①地域交流会や地域行事に対する生徒の自主的な参加を促し、地域との協働化や活性化を進めます。②地域防災訓練を通し、地域の方々と円滑な情報共有を図り、防災に対する理解を深めます。	地域交流会や地域行事に対する生徒の自主的な参加を促したが、今年度は難しかった。来年度もできる限り、地域との協働化や地域防災訓練を通して、地域の方々と円滑な情報共有を図り、更なる活性化を推進していきたい。	B	地域連携	①地域交流会や地域行事に対する生徒の自主的な参加を促し、地域との協働化や活性化を進めます。②地域防災訓練を通し、地域の方々と円滑な情報共有を図り、防災に対する理解を深めます。	コロナ禍のため、地域とのつながりが感じられる多くの事業が中止となった。今後は、持続可能な取組を学校・家庭・地域で模索していきたい。	B
いじめへの 対応	①「横浜プログラム」の活用、定期的な面談活動、アンケート調査を実施し、全職員で全生徒を理解・支援する意識を共有していきます。②校内授業研を実施し、主体的協働的な授業の追求を重ねるとともに、特別支援教育に関する研修も行う、集団にも個にも対応する教育を進めます。	①いじめ防止対策推進法及び学校いじめ防止基本方針に則り、いじめ防止対策委員会を常設したうえで、未然防止及び早期発見解決をめざします。②学校全体で生徒一人ひとりの情報共有を図り、チームで対応することで多角的な判断を推進します。	A	いじめへの 対応	①いじめ防止対策委員会を通し、生徒の情報共有を綿密に図ることができた。今後も、「横浜プログラム」の活用やいじめに関するアンケート調査をもとに、定期的な面談活動を通して、いじめに関する情報を迅速に把握できる体制づくりを目指します。	いじめ防止対策委員会を通し、生徒の情報共有を綿密に図ることができた。今後も、「横浜プログラム」の活用やいじめに関するアンケート調査をもとに、定期的な面談活動を通して、いじめに関する情報を迅速に把握できる体制づくりを目指します。	A	いじめへの 対応	①いじめ防止対策委員会を通し、生徒の情報共有を綿密に図ることができた。今後も、「横浜プログラム」の活用、定期的な面談活動、アンケート調査を実施し、いじめに関する情報を迅速に把握できる体制づくりを目指します。	全職員で全生徒を見守る体制作りをめざし、チームでの対応を心がけた。今後も誰もが安心して過ごしやすい学校作りをめざしていきたい。	B
人材育成・ 組織運営 (働き方改 革)	①生徒が安心して豊かな学校生活を送ることができるよう、指導方針の共通理解と教職員の指導力向上を目指します。②メンターチームによる年間を通した様々な指導場面に対応する研修を行います。③各研修会において、コンプライアンスの徹底と危機管理を意識した取組を進めます。	①生徒理解・指導力向上に向けた研修やチーム会議を通して、指導方針を共有し、安心・安全な学校づくりと人材育成に取り組んだ。②学年体制の中でメンター育成を図った。③危機管理意識を高める研修を計画的、継続的に実施することで、教職公務員としての自覚を高め、職員の法令遵守意識の向上を	B	人材育成・ 組織運営 (働き方改 革)	①生徒が安心して豊かな学校生活を送ることができるよう、指導方針の共通理解と教職員の指導力向上を目指します。②メンターチームによる年間を通した様々な指導場面に対応する研修を行います。③各研修会において、コンプライアンスの徹底と危機管理を意識した取組を進めます。	本校では、研修会を通し、指導方針の共通理解と教職員の指導力向上に努めることで、生徒が安心して豊かな学校生活を送る環境が整っているが、メンターチームによる活動が積極的になされていない点は、今後取り組んでいく必要がある。	B	人材育成・ 組織運営 (働き方改 革)	①各分掌の係長のもと、仕事内容を精選し、効率化をしていくことにより、職員の時間的な余裕が出来るようになります。②メンターチームによる年間を通した様々な指導場面に対応する研修を行います。③各研修会において、コンプライアンスの徹底と危機管理を意識した取組を進めます。	各分掌の仕事内容に偏りがあるのは事実であり、管理職を中心に各校務分掌の仕事内容の検討をさらに進めていきたい。メンター研修については今年度はメンター長を中心に月一回のメンター研修を行うなど、充実した活動であった。来年度もこの活動を引き続き行ってきたい。	B
ブロック内 評価後の 気付き	9年間で育てる子ども像のもと新学習指導要領実施に向けてのカリキュラム編成を行った。ブロック内で共有している育てたい資質・能力を各単元構成に活かした。			ブロック内 評価後の 気付き	「人との関わりを通して、主体的に考え、行動する子ども」をテーマに「～新教育課程(中学校)・実施(小学校)で見えてきた資質・能力の育成に向けた授業の課題と成果～」をサブテーマに今年度活動を行ってきた。今年度、コロナ禍の中制約があつたが、ブロック内で協議を行い、改善点や来年度に向けての課題等、共通理解をはかることができた。		ブロック内 評価後の 気付き	「人との関わりを通して、主体的に考え、行動する子ども」をテーマに「言語能力・自分づくりに関する力の育成に向けた授業の成果と課題」をサブテーマに位置づけ、今年度の活動を行ってきた。コロナ禍の中、小中交流公開授業は実施出来なかったが、各校でテーマに基づいた校内授業研を行い、小中教務主任会で情報交換を行うことを通して、テーマについて活動の進捗状況の共有を図ることができた。			
学校関係者 評価	中学生が積極的に地域の活動に参加してくれている。子どもが地域の行事に参加していると、保護者の方も地域に目を向けるようになると思う。地域での問題行動もなく、子どもたちはとても落ち着いている。			学校関係者 評価	コロナ禍の中、境木中ブロックは熱心に活動している。また、授業参観等が今年度中止される中で、学校ホームページや学校便り等を通して、学校の様子を知ることができた。また、学校評価アンケートで「全職員で生徒を育てている」という項目の評価が保護者・生徒共に高いことは素晴らしい。先生方が日頃から生徒を大切にしていることが分かり安心した。		学校関係者 評価	・コロナ禍での教育活動として、オンライン授業が印象的である。工夫して教育活動を行っていること、生徒の情報機器の適応力の高さもよく分かった。また、授業参観はなかったが、ホームページや学校便りの内容が濃いので、ある程度学校の様子を把握することができた。 ・コロナ禍で人と人が触れ合う活動が減っていることが心配である。学校行事も状況下でできる形式のものを協力して実施してほしい。			
中期取組 目標 振り返り	「子どもが楽しく学校に通っている」という保護者の回答結果や、「思いやりの大切さ・いじめをなくしたい」という生徒の回答結果がとても良好な値を示しており、生徒が安心して生活できる学校づくりが推進できている。様々な行事を通して、地域とのかかわりもよく、地域の方々からも高く評価されている。生徒に関しては、自主性や積極性において今一步のところがあつたので、改善に努めた。また、人間関係の形成が上手でない生徒が多いので、集団の中での関わりや相互理解する力を育てていきたい。			中期取組 目標 振り返り	コロナ禍で、修学旅行や自然教室・文化祭などは中止したが、体育大会や校外学習は内容を変更し実施した。その中で生徒が達成感を得られ、生徒が主役となる学校づくりにとめることはできた。小中交流事業も中止となったものにはあるが、保護者・生徒から「小中学校は相互に連携しながら教育活動を行っている」という項目に対して高く評価されている。「人権について考えを深めることができた」の項目が、保護者・生徒に対して職員の評価が低いので、来年度改善していきたい。		中期取組 目標 振り返り	・教育課程全体で育成を目指す資質・能力については職員の意識も深まり、それをもとにして教育活動を行っていくことができた。特に「自分づくりに関する力」では1年生でのPAAの導入や全学年GWTを学ぶの時間に行うことを通して、高めることができた。 ・地域連携活動も、コロナ禍で制限されてしまい、従来通りの活動を行うことが出来なかった。学校運営協議会とも連携を図り、この状況の中で地域連携としてどんな活動ができるか協議し、実施していきたい。			